

学校経営目標 志高く 美しく

学校教育目標

自分を大切に 人を大切に ふるさとを大切に  
しなやかに たくましく生きる子どもの育成  
「チャレンジ！ 藤江っ子」  
～未来へ向かってアップデート～

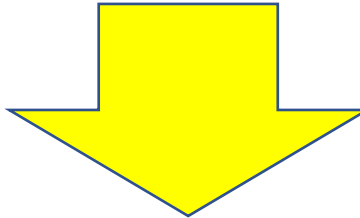
育成する資質・能力

～自分で考え 自分で選び 行動する～

育成する 資質・能力	主体的に学ぶ力	思考力・判断力・表現力	自己形成力	
めざす 子ども像	小1 ～ 小4	日常生活をよくするために、生活体験などの情報を生かし、様々な課題に意欲的に取り組むことができる。	自分の考えを持ち、相手意識を持って、話したり書いたりして表現している。	思いやりの心を持ち、目標を達成するために、協力し合い、粘り強く努力している。
	小5 ～ 中1	日常生活や地域社会をよりよくするために、学ぶことに対し自分で価値を見出し、様々な課題に意欲的に取り組むことができる。	日常生活や地域社会をよりよくするために、既習事項を活用して、自分の考えや意見を話す・書く等で表現している。	日常生活や地域社会をよりよくするため、相手の立場も思いやりながら目標を決めて、最後までやり遂げようとする。
	中2 ～ 中3	社会をよりよくするために、学ぶことに対し自分で価値を見出し、様々な課題に自発的・能動的に取り組むことができる。	社会をよりよくするための課題を見つけ、既習事項を活用して、自分の考えや意見を工夫しながら表現している。	誰に対しても思いやりの心を持ち、より高い目標を達成するために、相手の立場や考えを尊重しながら、粘り強く取り組み、やり抜いている。

【実態】

- 自己肯定感が高く、学習規律が整っている。自ら新しいことに挑戦することには課題がある。
- 目的や意図に応じて、それらの方法を使って自己解決することは十分ではない。



【取組】

相手意識、目的意識をもって話したり、書いたりすることを意識して学習した。図をかき、分かる情報を書き込み、問題を解く方法を身に付けた。

研究主題

主体的に学び続ける子どもの育成  
～自己の学びを自覚し力をつける授業づくり～

研究仮説

児童と教師が単元のゴールを共有し、付けたい力を明確にして見通しをもったり、教師が学習過程において一人一人の思考を見取る場面を設定し授業に反映させたりすることで、自己の学びを自覚し、主体的に学び続ける児童が育つであろう。

研究内容

- 児童に学びの必然性をもたせることによる学習意欲の向上
- 児童一人一人の学びのみとりによる授業・単元づくり
- 学校と家庭を学びで繋ぐ振り返りの活用

検証指標

- ①算数科の単元末テストにおいて、60点未満の児童を20%以下にする。
- ②標準学力テストの算数科において、全国平均を上回る児童を前回以上にする。

めざす授業の姿 ～創造的思考を培う授業～

- ・単元のゴールを児童と教師が共有し、見通しをもって学びを進めている。
- ・児童が自ら課題を見つけ、見方・考え方を働かせ自らの思考を表現している。
- ・振り返りを通して、児童自らが学びの変容を自覚し、次の学びにつなげている。

## (1) 研究内容 ～主体的に学び続ける子どもの育成～

### ① 児童に学びの必然性をもたせることによる学習意欲の向上

- ・単元の計画をする際、数学的な見方・考え方を意識し、学びづくり案へ反映させる
- ・ゴールイメージを子どもと共有し、つける力や活用する知識を明確にする
- ・活動の内容や方法を自覚させる動機付けを行う
- ・生活場面と結び付けた教材を開発する
- ・ICT を効果的に活用する

### ② 児童一人一人の学びの見取りによる授業・単元づくり

#### ア 指導の工夫

- ・単元計画や学習計画に「一人で学ぶ」「みんなで学ぶ」を位置づける
- ・子どもの思考の流れを見取る視点を明確にする（「何を」「どのように」見取るのか）
- ・事前に考えた意見を交流し思考が深まる授業展開にする
- ・児童自ら課題解決のために必要なことを選び、取り組む学びの過程の充実を図る

#### イ 学び合うための工夫

- ・同学年・異学年・他校交流を通して、自己表現力を磨く
- ・相手に伝わりやすい表現方法（言葉・図・ICT）を選ぶ

#### ウ 確かな力をつけるための工夫（思考の見える化）

- ・視覚的に情報整理する（分かる情報を書き込む、図や絵で表す）
- ・根拠を明確に思考する（理由を示す）
- ・条件に沿って表現する（問われていることに沿って答える）

### ③ 学校と家庭を学びで繋ぐ振り返りの活用

- ・学びの変容を自覚させる
- ・1時間の学びを次の学びにつなげる
- ・単元を通して、つけたい力がついたか判断させる
- ・授業での学びと家庭学習をつなぐ

#### 【ふり返りの視点】

- ・分かった、できるようになったこと
- ・「習ったことを使えた!」「おもしろい」と思ったこと
- ・これまでよりも深まった、広まったこと

→（これから）何をするのか

例：今日の授業では、最初はよく分からなかったけど、「〇〇」の学習で習った考え方を  
使うとできた。他の問題でも使えるか試すために家庭学習でキュピナの問題を解こう  
と思う。

## (2) 研究体制

### ①全体・グループ形式

Aグループ（1・4・5年、な1）

Bグループ（2・3・6年、な2）

### ②授業研究までの流れ・スケジュール

教材研究・指導案検討（全体）  
内容のPR



研究授業・研究協議  
（全体）

## (3) 研究年間計画

月 日	開始時刻	内容	授業者	備考
4月28日(月)	15:00	全体会(オンライン) 校区合同研修(各部会の学校)		一斉研修D①
5月1日(木)	15:30	研究構想		
5月8日(木)	15:00	S-P表の見方について		講師(市教委より)
5月9日(金)	15:30	教材研究・指導案検討(全員)①		
5月16日(金)	13:25 14:30	研究授業① 事後協議	2年	一斉研修A① 掃除なし
6月5日(木)	15:00	教材研究・指導案検討(全員)②		
6月18日(水)	13:25 14:30	研究授業② 事後協議	1年	一斉研修A② 幼保小連携 掃除なし
6月19日(木)	15:30	教材研究・指導案検討(全員)③		金江小1年研究授業
7月1日(火)	13:25 14:30	研究授業③ 事後協議	なかよし	
7月8日(火)	14:00	校区合同授業(精華)		一斉研修D②
7月29日(水)	午前中	校区合同研修(精華) ①学校運営協議会 ②各部会		
8月5日(火)	午前	幼保小連携		一斉研修A③
8月6日(水)	午前	全国学力・学習状況調査の分析		
8月20日(水)	11:05	道徳指導案検討		道徳参観日(9月26日)
8月21日(木)	11:05	教材研究・指導案検討(全員)④⑤		
9月18日(木)	13:25 14:30	研究授業④ 事後協議	3年	一斉研修A④ 掃除なし
10月2日(木)	15:00	教材研究・指導案検討(全員)⑥		
10月9日(木)	15:00	教材研究・指導案検討(全員)⑦		
10月23日(木)	13:25 15:00	研究授業⑤ 事後協議	4年	
10月27日(木)	14:00	校区合同授業(藤江)⑥ ①授業研究 ②協議 ③講義	6年	一斉研修D④ 掃除なし
11月6日(木)	15:00	教材研究・指導案検討(グループ)①・②		一斉研修A⑤ 掃除なし
11月20日(木)	13:25 14:30	研究授業(グループ)① 事後協議	低	
11月25日(火)	13:25 15:00	研究授業(グループ)② 事後協議	なかよし	
12月4日(木)	13:25 15:00	研究授業⑦ 事後協議	5年	
12月5日(金)	14:00	幼保小中(金江)		一斉研修D⑤
12月24日(水)	15:00	教材研究・指導案検討(グループ)③		
12月25日(木)	15:00	教材研究・指導案検討(グループ)④		

1月15日(木)	13:25 15:00	研究授業(グループ)③ 事後協議	高	
1月29日(木)	14:00	校区合同授業(金江) ①授業研究 ②協議 ③講義		一斉研修D⑥
2月5日(木)	13:25 15:00	研究授業(グループ)④ 事後協議	中	
2月10日(月)	15:00	校区合同研修(精華)③ ①各部会 ②全体会		一斉研修D⑦
3月26日(木)		研究のまとめ	全体	

<研究授業の視点>

- ①児童が思考・表現しながら学んでいたか。
- ②児童が必然性をもって学んでいたか。

※ 昨年度講師の先生を招聘した研修

	講師	内容	備考
1	坂本次長	特別支援	5/2
2	中林 浩子教授	特別支援	10/28
3	加地 道歩先生	音楽	9/18

(4)「学びのアンケート」について（各学期末実施）

①ねらい

- ・ 児童の「学びの意識」について客観的にとらえる。
- ・ 児童の学びの意識を高める。

②内容

「学びのアンケート」

1 当てはまる

2 どちらかといえば、当てはまる

3 どちらかといえば、当てはまらない

4 当てはまらない

質問項目
1. 算数の授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていますか。
2. 算数の授業で学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。
3. 算数の学習で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。
4. 算数について、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。
6. 算数の授業の内容はよく分かりますか。
7. 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
8. 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか。
9. 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。
10. 算数の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか。
11. 算数の授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思いますか。
12. 算数の授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないか」と予想していますか。
13. 算数の授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめていますか。
14. 算数の授業では、情報を、比べたり（比較）、仲間分けしたり（分類）、関係を見付けたり（関係付け）して、何が分かるのかを考えていますか。
15. 算数の授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫していますか。
16. 算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。

## (5) 研究結果

検証指標①算数科の単元末テストにおいて、60点未満の児童を20%以下にする。

<各学期の算数科単元末テストの60点未満の児童の割合>

### ○1学期

トータル	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年な2	3年な2	4年な2	6年な2	全校
枠	120	168	84	112	117	204	8	10	9	10	842
60未満	13	20	7	8	26	40	0	1	0	0	115
%	10.8	11.9	8.3	7.1	22.2	19.6	0.0	10.0	0.0	0.0	13.7

知・技	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年な2	3年な2	4年な2	6年な2	全校
枠	60	84	42	56	54	72	4	5	5	5	387
60未満	2	3	0	2	7	6	0	0	0	0	20
%	3.3	3.6	0.0	3.6	13.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	5.2

思判表	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年な2	3年な2	4年な2	6年な2	全校
枠	60	84	42	56	63	126	4	5	4	5	449
60未満	11	16	7	6	19	34	0	1	0	0	94
%	18.3	19.0	16.7	10.7	30.2	27.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.9

### ○2学期

トータル	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年な2	3年な2	4年な2	6年な2	全校
枠	168	168	84	196	90	217	26	18	13	14	994
60未満	17	11	10	22	12	46	4	1	2	0	125
%	10.1	6.5	11.9	11.2	13.3	21.2	15.4	5.6	15.4	0.0	12.6

知・技	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年な2	3年な2	4年な2	6年な2	全校
枠	98	84	42	98	45	98	16	9	6	7	503
60未満	6	3	0	7	2	6	2	0	0	0	26
%	6.1	3.6	0.0	7.1	4.4	6.1	12.5	0.0	0.0	0.0	5.2

思判表	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年な2	3年な2	4年な2	6年な2	全校
枠	70	84	42	98	45	119	10	9	7	7	491
60未満	11	8	10	15	10	40	2	1	2	0	99
%	15.7	9.5	23.8	15.3	22.2	33.6	20.0	11.1	28.6	0.0	20.2

### ○3学期

トータル	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年な2	3年な2	4年な2	6年な2	全校
枠	154	156	74	130	90	136	20	8	10	10	788
60未満	14	9	7	17	17	15	4	1	1	0	85
%	9.1	5.8	9.5	13.1	18.9	11.0	20.0	12.5	10.0	0.0	10.8

知・技	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年な2	3年な2	4年な2	6年な2	全校
枠	84	84	37	65	45	68	10	4	5	5	407
60未満	2	1	2	7	0	5	1	0	0	0	18
%	2.4	1.2	5.4	10.8	0.0	7.4	10.0	0.0	0.0	0.0	4.4

思判表	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年な2	3年な2	4年な2	6年な2	全校
枠	70	72	37	65	45	68	10	4	5	5	381
60未満	12	8	5	10	17	10	3	1	1	0	67
%	17.1	11.1	13.5	15.4	37.8	14.7	30.0	25.0	20.0	0.0	17.6

上記より観点別に見た際、知識技能は概ね満足できる結果だったが、思考判断表現において特に高学年で課題が見られた。単元末テストの活用題で出題される、〇〇さんの考えの空欄を埋める問題の正答率が低い。よって自力で解法を決めて取り組む問題はある程度答えを導くことができるが、自分の考えた解法と異なると正しく答えることができなくなってしまうことが分かる。

検証指標②標準学力テストの算数科において、全国平均を上回る児童を前回以上にする。  
 <学力標準調査において全国平均を下回った児童数の比較>

	1	2	3	4	5	6	な2	計
前回		5	4	7	2	8	2	28
今回	6	3	2	3	2	5	2	17
前回比		-2	-2	-4	0	-3	0	-11

上記より学校全体で全国平均を下回った児童は前回比 11 名減少した。しかし、各学年において以下の点について課題が挙げられた。

(各学年の課題)

1年生：加法及び減法の適切な立式

2年生：繰り上がり、繰り下がりのある計算、測定（長さ）領域

3年生：かけ算の筆算、乗法及び除法の立式、あまりの処理

4年生：概数、計算の決まりを利用した計算、あまりの処理

5年生：文章題に応じた図の選択、問題場面を把握して図に表す力

6年生：文章問題にあった立式

## (6) 成果と課題

### ○成果

本年度は、「主体的に学び続ける子どもの育成～自己の学びを自覚し力をつける授業づくり～」を通して自己の学びを自覚し、学力を定着するための学びを進めた。年2回公開授業を行い、互いの授業を見あうことで、児童がどのように学んでいくのかの交流を行った。

特に重点を置いたのは次の三つの取り組みである。一つ目は「学びの必然性」である。教師は単元のゴールを意識して単元及び各時の導入を工夫した。そうすることで、児童が「なぜ学ぶのか」「学びたい」と感じられるような授業展開になり、各単元でつける力を教師と児童で共有し、見通しをもって学習することができた。

二つ目は、「思考の見える化」である。児童が思考したことを、図・式・言葉などで表すようにした。教師は児童の思考を見取ることができ、必要な支援を行うことができた。また、授業内での児童の思考の変容を見取る手掛かりにもなり、より個に応じた的確な支援を行うことができた。

三つ目は、「家庭学習と授業をつなげた」ことである。昨年度に引き続き、予習を活用した授業の実践や、授業後の振り返りで児童が身に付けたいと思った力を付けるための宿題プリントの選定など、授業及び家庭学習の内容が点ではなく線となってつながるように工夫をすることで、より確かな力にすることができた。

### ○課題

「思考の見える化」は学力の定着に有効な手立てではあるが、全校児童への十分な定着には至っていない現状がある。来年度は、答えを導くための具体的な方法（作図や数値への書き込みなど）を通して問題場面を整理する力を育成し、その手立てを教師が意図的、継続的に指導して確実に取り組ませていく必要がある。あわせて、身につけた情報整理の方法を活用しながら、自力で問題を解決する力の向上を図るとともに、四則計算の意味理解を深め、場面に応じた適切な計算の選択ができるよう指導の充実を図っていく。